

【研究主題】

「わかる・できる」そして関わり合いから思考力が高まる授業 ～UDの視点を取り入れた授業実践から～

1 主題について

(1) 前年度の研究成果と課題から

本校では、平成 24 年度から言語活動に重点を置き、「思考力・判断力・表現力を向上させる学習指導」の在り方について研究を深めてきた。昨年度は、教科毎による共通実践項目の設定、個人毎での自主研修目標の設定を行い、言語活動が日常的に行われるよう授業実践を行ってきた。その結果、言語活動のさまざまな形態が提示されるなどの成果が見られた。反面、言語活動にこだわるあまり、手段であるはずの言語活動が目的化してしまい、本時のねらいをいかに達成するのか、子どもに基礎的基本的な力を定着させることがおろそかになった面もあるという課題も残った。

昨年の反省を踏まえ今年度の研究では、本校生徒の実態について十分考慮する必要があると考えた。特に前研究テーマを始めた平成 24 年度の生徒の実態と比較すると、生徒の学習意欲の低下、基礎的な知識と技能の習得が不十分という課題が浮かび上がってきた。そこで、前研究テーマ「思考力・判断力・表現力」の前提となる基礎的な知識と技能の育成に焦点をしばり、生徒の学習の土台となる力を育てることで、思考力・判断力・表現力の育成につなげていくプロセスを考えてく。

(2) 「授業におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れる」について

現在、通常学級において、6%の生徒（中学校）が「知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で著しい困難を持っている」とされている（文科省 2012）。そこで、どの子ども「わかる・できる」環境を設定するために、特別支援教育の考えを取り入れたユニバーサルデザイン（UD）の授業作りが必要となる。授業の UD とは「学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、すべての子どもが、楽しくわかる・できることをめざし、教科における工夫、様々な子どもへの配慮を駆使して行う授業のデザイン」（授業のユニバーサルデザイン研究会より）のことである。

本校に視点を当ててみると、通常学級における特別支援を要する生徒が 14.3%（H26 年度巡回相談の結果より）と全国平均よりも高い割合である。また全国標準学力テストの結果（H26.3 実施）をみても、平均偏差値 52.5 を超える教科が多数ある。しかし、2 年男子では学力偏差値 1・2 の割合が 46% と基礎学力不足が数値からも見て取れる。さらに指導者の授業反省からも「50 分間、生徒の集中力が続かない」「指示した内容を理解できない」生徒が目立つ。以上のことからすべての子どもの学びを保障する、UD の視点を取り入れた「わかる・できる」授業づくりを探っていくことが、今年度の本校学校研究の最重要事項と考えた。

(3) 「関わり合いから思考力が高まる」について

明星大学准教授・小貫悟氏は、「一時的な理解を思考場面における『習得・活用』にまで高める方法論を持って、初めてユニバーサルデザインの授業づくりが成立するのではないかと述べている。学校教育法第 30 条第 2 項も、学習意欲や知識・技能と思考力等とを関連させながら高めていく必要性を示している。つまり、「活用」する力とは「知識技能」「学習意欲」に支えられ関連させながら身に付けていくものである。逆に言えば、「わかる・できる」ようになるためには「活用」することが必要と言える。

そこで、「思考力・判断力・表現力」の育成を「思考力」にしばり、改めて UD の視点から探っていく。前年度までの研究では、学習形態についての工夫が多く見られたが、生徒の実態をみると「難しい問題

にチャレンジしようとする意欲の不足」や「何を根拠に思考活動を行えばよいのかわからず、指導者の説明を聞いている」生徒も見うけられる。また定期テストの文章問題等で無記入の生徒もいる。そこで学んだ知識を活用しようとする意欲がわく授業、「学習意欲」「知識技能」等が関わり合って「思考力」が高まるの授業づくりを本年度の研究テーマとして設定した。

2 研究のねらい

(1) めざす生徒像

【めざす生徒像】	I 基礎的な知識・技能を <u>意欲的に</u> 習得する生徒
	II 習得した知識・技能を <u>積極的に</u> 活用する生徒
	III 習得・活用の場面で <u>他と積極的に</u> 関わり合う生徒

(2) 研究仮説

〔仮説1〕

生徒集団の良さを活かし、UDの視点に沿った手だてを工夫することで、教材・教科の特性を感得し、基礎的な知識・技能を意欲的に習得できるようになるのではないか。

〔仮説2〕

習得した知識・技能を活用する場面を、UDの視点に沿った手立て工夫することによって、思考力の育成につながるのではないか。

(3) UDの視点について

UDの7つの視点（山形県教育センターUDハンドブックより）を以下の通り設定した。

I 教室環境

- ① 整理の仕方や置き場所を決め、教室の整理整頓の仕方を指導している。
- ② 児童生徒の実態に合わせた座席の位置を決めて指導している。
- ③ 学習時の視覚刺激の量に配慮している。
- ④ 一週間や一日の予定などのスケジュールを見やすく掲示して指導している。
- ⑤ 急な連絡や予定の変更は、口頭だけでなく、視覚的にもわかるように配慮して伝えている。
- ⑥ 児童生徒の実態に合わせた座席の位置を決めて指導している。
- ⑦ 学習時の視覚刺激の量に配慮している。

II 学習や生活のきまり

- ① 学習活動のきまりをわかりやすく定め、指導している。
- ② 学級生活のきまりをわかりやすく定め、指導している。
- ③ 身の回りの整理整頓について、わかりやすく指導している。
- ④ ①②③について、児童生徒の実態を振り返り、必要に応じて見直しを図りながら指導している。
- ⑤ 担当教科の学習活動のきまりは、学級・学年・学校のきまりを踏まえ、わかりやすく指導している。

III 関係づくり

- ① 児童生徒の理解、児童生徒同士の関係の把握に心がけ、観察・記録を大切に指導している。
- ② 児童生徒同士が学級のことや友だちのことについて話し合える場を作ったり、話し合える工夫をした

りしている。

- ③ 時・場・相手などに応じたコミュニケーションの仕方やマナーについて指導している。
- ④ 児童生徒のトラブルや問題について、本人又は保護者との相談を通し、その望ましい在り方を指導している。
- ⑤ 教科のねらいを達成するために、学級ごとの特性を把握して指導している。

IV 授業の構成

- ① 単元や本時などで、学習の流れを提示し、児童生徒が見通しを持ち学習に取り組めるようにしている。
- ② 教科書、ノートやファイル、学習用具の準備について指導している。
- ③ 導入の段階で、本時の課題につなげる工夫をしている。
- ④ わかりやすく主体的に取り組めるような課題設定を行い、自力解決のための思考の手がかりを持たせている。
- ⑤ 展開の段階で、中核となる学習活動とそれに付随する学習活動のバランスや軽重を意識して進めている。
- ⑥ ペア学習、グループ学習など、ねらいに応じてさまざまな学習の形態を工夫している。
- ⑦ 集中力を高めたり気分を切り替えたりする活動を取り入れるなどして構成を工夫している。
- ⑧ 終末の段階で、「わかった、できた」という満足感・達成感を実感できるまとめの活動を工夫している。

V 教師の話し方、発問や指示

- ① 児童生徒のがんばりを認め、肯定的な表現で話しかけている。
- ② 全体への発問・指示と個別の声かけ・確認などの支援の仕方を工夫している。
- ③ 話し始める前に、児童生徒の興味を引く工夫をしている。
- ④ 児童生徒に伝わる発問や指示になるように工夫している。
- ⑤ 複数の発問や指示の仕方を準備し、五感に働きかけるように工夫している。

VI 板書、ノートやファイル

- ① 教室の後ろの児童生徒からも見えるような文字の大きさ、行間にしている。
- ② 大事なところがわかるように工夫して示している。
- ③ 児童生徒が理解し、書き取りやすいような板書の仕方を工夫している。
- ④ 授業の流れや内容がわかるように板書計画を工夫している。
- ⑤ ノートの取り方やファイルの活用の仕方を指導している。

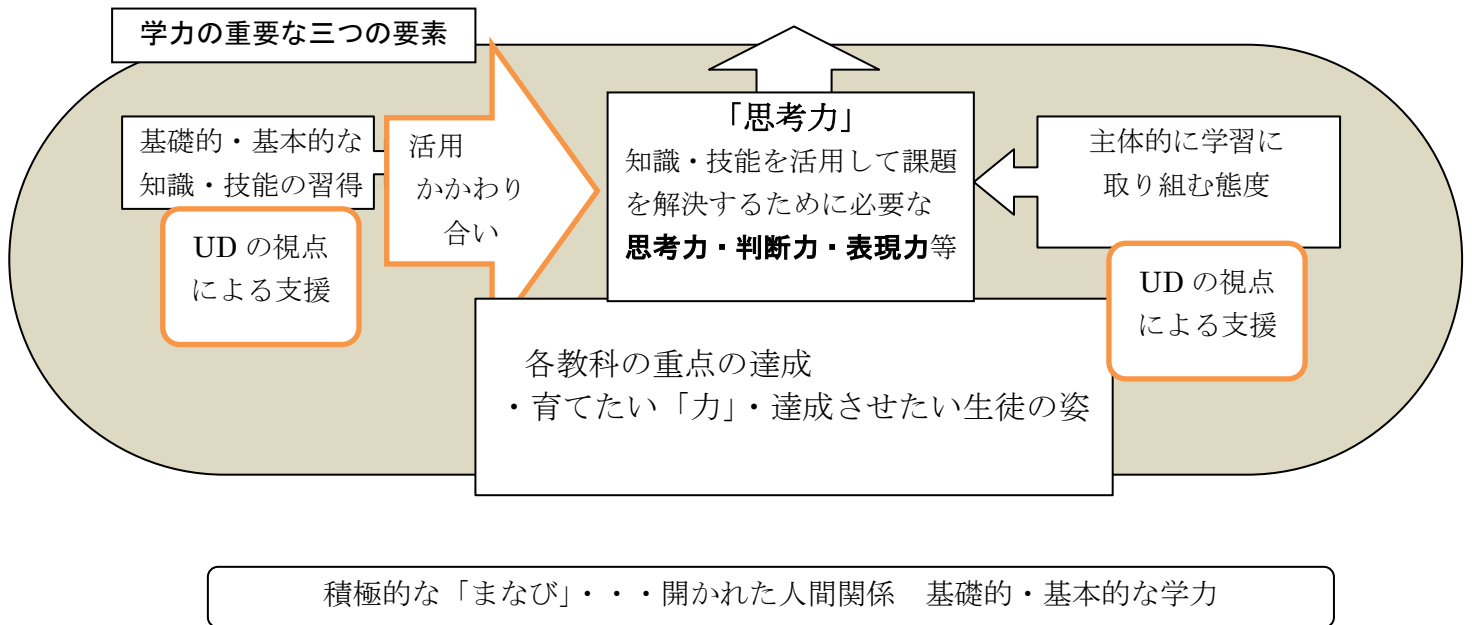
VII 教材・教具

- ① わかりやすい教材・教具を使っている。
- ② 児童生徒の実態に合わせて、材料、道具、用具を準備して活用している。
- ③ ワークシートや課題プリントは、読みやすく書きやすいように工夫している。
- ④ 児童生徒の実態に合わせて、対応できるような教材を準備している。

この視点は、前年度の「集団」「内容」「自分」「環境」の4つの視点とほぼ一致する。今年度は、上記のUDの視点に沿った手立てを仮説を検証する手立てとして指導案（本時の指導計画：Vの③のように）に盛り込む。特に研究授業では、上記の視点の何を重視し、どんな手立てにしたことが本時のめあてを達成するために有効だったか検証する。また、昨年度行った個別支援計画についても今年度継続し、指導案（本時の指導計画）に、個別支援計画という形で盛り込む。

[学校研究イメージ図]

白い森の国おぐにを愛し、たくましく、心豊かで、生きぬく力を身に付けた小国人の育成



3 研究計画・方法

(1) 研究の進め方

共通実践項目を設定して研究を進める。

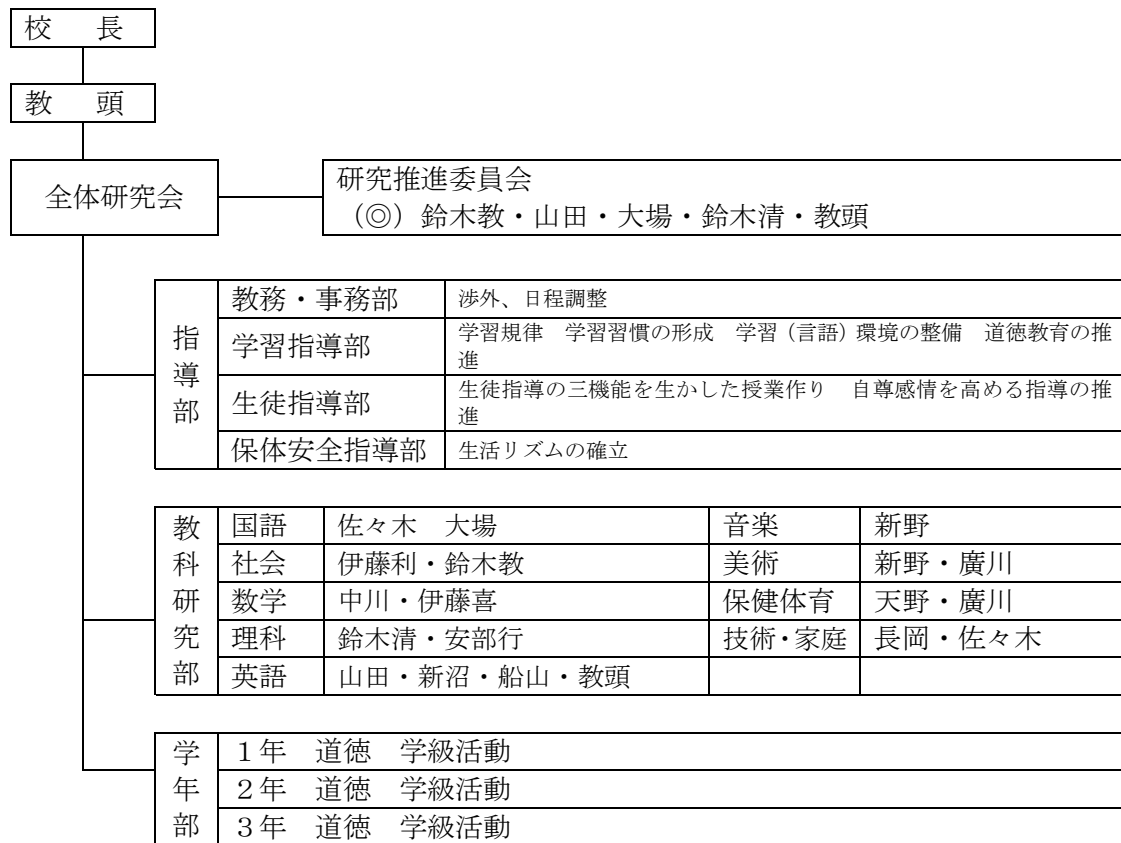
・各教科で『育てたい力』を明確化し、年間計画の中に重点単元を設定する（1～2 単元）とともに、年度当初のオリエンテーション等で、『達成させたい生徒の姿』を示して授業に臨む。

(2) 研究計画と基本的な進め方

- ① 目指す生徒像に迫るために、授業研究を核とした仮説の検証を、仮説の視点に沿った手立てを講じることで行う。
- ② 学校研究の仮説に沿った各教科の仮説・重点を設定し、生徒にも周知したうえで、生徒と共に、日常的に研究に取り組む。
- ③ 授業研究会については、全体（グループ）研究会・学年研究会・教科研究会を設定する。
 - ・全体研究会は9教科を2グループに分け、それぞれのグループの構成メンバーで事前・事後研究会を行う。
 - ・学年研究会は道徳・学級活動について事前・事後研究会を行う。
 - ・教科研究会・学年研究会は、それぞれの教科で事前・事後研究会を行う。
 - ・すべての研究会を小国町内の小中高一貫教育の交流授業対象とし、参加者から広く意見や感想を求める形で、研究を深める手立ての1つとする。
- ④ 全体研究会は、年間3回の提案授業と事後研究とし、全員で参観し、事後研究会の全体会を行う。
- ⑤ 上記の授業研究会以外の月には4回の教科研・学年研を設定する
- ⑥ 事後研究会は、研究会のグループに分かれ、ワークショップ型研修を行うことを基本とする。
- ⑦ 授業者は、事後研究会後に研究仮説に基づいた成果と課題を明らかにして、「授業のまとめ」を研究主任に提出する。記録者は、事後研究会の記録をまとめ、研究主任に提出する。

- ⑧ 研究主任・推進委員は、授業研究後に研究仮説に基づいた成果と次回の方向性をまとめ、「学校研究たより」を発行する。
- ⑨ 上記記録と個人のまとめを集約して学校研究集録を作成し、次年度の研究に生かしていく。
- ⑩ 基礎的な学力を充実させるための分析や手立てについては、各教科部会で進めていく。
- ⑪ 研究推進委員会は、校内研修への提案等のために必要に応じて開催する。

(3) 研究組織



(4) 月ごとの計画

月	期日	研究会・研修会名	内 容	学習指導部	生徒指導部	保健安全指導部	教務・事務部
4月	4/3(金)	職員会議 (校内研修)	26年度研究主題, 内容, 仮説視点, 年間計画の提案検討	教科経営案 学習規律 オリエンテー ション(各教 科)	生徒会総会 準備	教室・校内 環境美化	講師日程調整 指導主事要請
		教科部会	各教科の26年度重点単元・目標 の確認と決定				
		研究推進委員会	年間の授業者決定				
5月	5/18(月)	事前研1	指導案検討		あいさつ運動 Q-Uテスト	セーブメディ ア 縦割り清掃	
	5/27(水)	第1回授業研究会	授業者 鈴木教(社会) 鈴木清(理科)				
6月	6/30(火)	事前研2	指導案検討		全校 ボランティア	縦割り清掃	

7月	7/13(月)	第2回授業研究会	授業者 廣川(体育) 佐々木(国語)	学習アンケート 全校テスト	クラスマッチ	清掃強調期間 ワックスかけ	
8月	8/17(月)	校内研修 (職員会議)	1学期のまとめと2学期の方向性		運動会	セーブメディア	
9月	9/7	教科研・学年研	大場 船山・中村	修学旅行・学年行事			
10月	10/6(水)	教科研・学年研 乙研3	授業者 天野・山田				
	10/13(火)	事前研3	指導案検討	学習規律 道徳推進月間	校内ボランティア 文化祭準備	ワックスかけ	
	10/22(木)	第3回授業研究会	新野(音楽)・長岡(技術)				
11月	11/4(水)	事前研4	指導案検討		合唱交流会 Q-Uテスト	縦割り清掃	
	11/18(水)	計画指導	授業者 中川・安部行				
12月	12/11(金)	教科研・学年研 乙研4	伊藤利(社会) 伊藤喜、安部明(数学)	全校テスト		清掃強調期間	
	12/25(金)	研究推進委員会	今年度の成果と課題				
1月	1/6(水)	校内研修	学校研究の年間のまとめ			セーブメディア	研究集録発行
	1/20(水)	研究推進委員会	研究集録について				
2月	2/10(水)	校内研修 (職員会議)	来年度の学校研究について	全校テスト			

- ※1 現職等の授業研究にあたる教員は、(基本的に)教科研・学年研の授業からは除外するが、できる範囲で学校研究も意識しながら授業を実践していただき、個人のまとめの中で発表していただく。
- ※2 教科研・学年研については、現職等や校内の授業研究会に該当しない先生(今年度指導案を作る機会のない先生)全員を対象とし、略案を作成して授業をおこなう。基本は教科・学年研修とするが、授業に支障をきたさない範囲で、全職員が研修をする場とする。事後研究会は、特設時間を設定できないので、放課後を利用して行う。

H27 授業研究会授業者

月	内容	授業者(教科) 学年	
5月	第1回研究授業	鈴木教(1年社会)	鈴木清(2年理科)
7月	第2回研究授業	廣川(体育)	佐々木(国語)
9月	教科・学年研修1	大場(国語)	船山・中村(国際)
10月	教科・学年研修2	山田(英語)	天野(体育)
	第3回研究授業	新野(音楽)	長岡(技術・家庭)
11月	計画指導	中川(道徳)	安部行(理科)
12月	教科・学年研修3	伊藤喜、安部明(数学)	伊藤利(社会)